

資料1

ハタハタ資源対策協議会資料

水産振興センター

表1 秋田県における漁獲可能量と漁獲実績の推移

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	53	63	85	89	104	170	142	84
8年	110	81	74	110	157	143	220	238	108
9年	180	139	77	180	288	160	360	427	119
10年	300	162	54	300	436	145	600	597	100
11年	400	142	36	600	537	89	1,000	679	68
12年	400	265	66	600	886	148	1,000	1,151	115
13年	520	506	97	780	958	123	1,300	1,464	113
14年	680	384	56	1,020	1,444	142	1,700	1,828	108
15年	960	906	94	1,440	1,939	135	2,400	2,845	119
16年	1,000	707	73	1,500	2,200	157	2,500	2,906	116
17年	1,000	489	49	1,500	1,864	124	2,500	2,353	94
18年	800	943	118	1,200	1,636	136	2,000	2,579	129
19年	720	846	118	1,080	771	71	1,800	1,618	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,019	112	3,000	2,887	96
21年	1,040	1,054	101	1,560	1,439	92	2,600	2,493	96
22年	960	457	48	1,440	1,285	89	2,400	1,742	73

※ 平成9年以降は、沖合は管理漁期(9月～翌6月)、沿岸は漁期(11月～翌1月)の合計値 (水産漁港課調べ)

◎H22年の配分枠に対する実績は、沖合 48 %、沿岸 89 %、全体で 73 %となった。

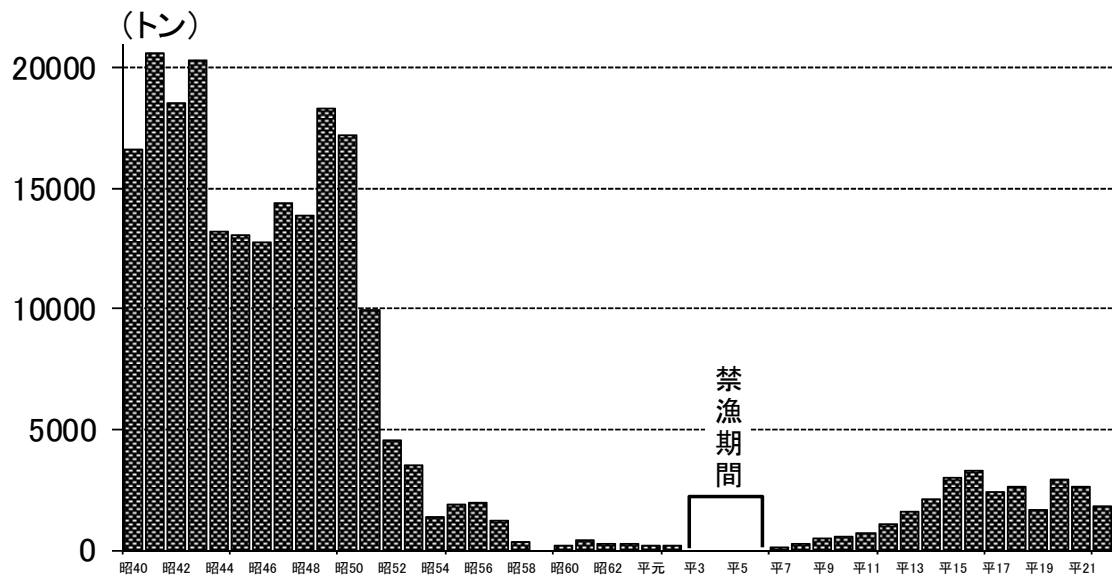


図1 秋田県におけるハタハタ漁獲量の推移

(H20年までは農林水産統計、H21,22年は東北農政局速報値)

◎H22年の本県漁獲量は1832トンで、解禁後3000トンにまで増大したH16年以降では、H19年の1653 トンに次ぐ低水準だった。

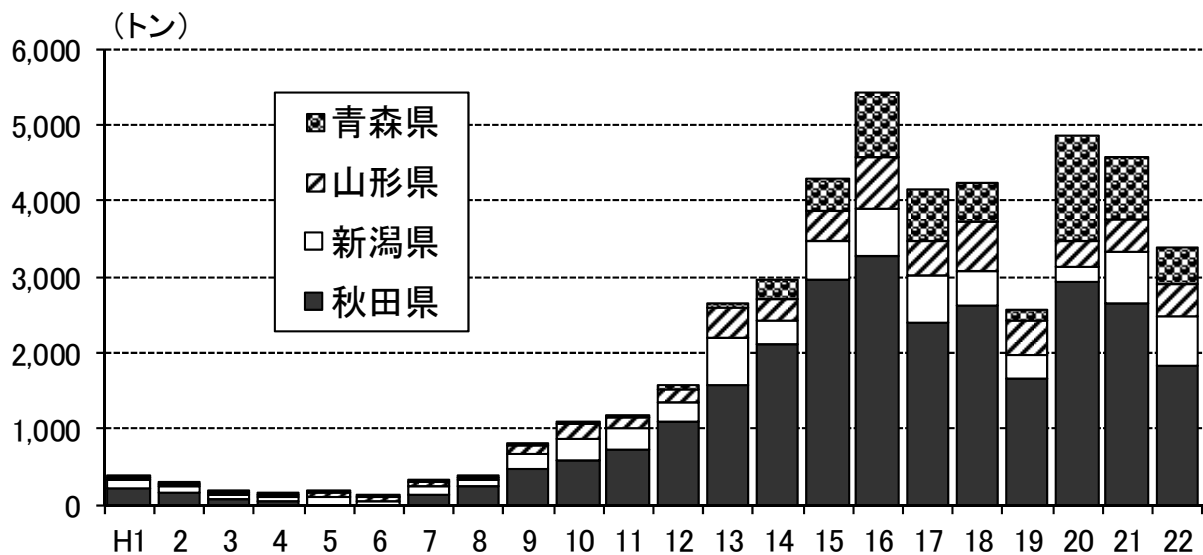


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

- ◎H22年の4県漁獲量は3384トンで、H20, 21年漁期より低下した。
- ◎秋田県の割合は60 %で、前年に比べ0.7 ポイント減少した。
- ◎県別では秋田 1832トン(前年比 69 %)、青森 495トン(60 %)、山形 407トン(91 %)、新潟 650トン(98 %)で、特に青森、秋田で大きく減少した。

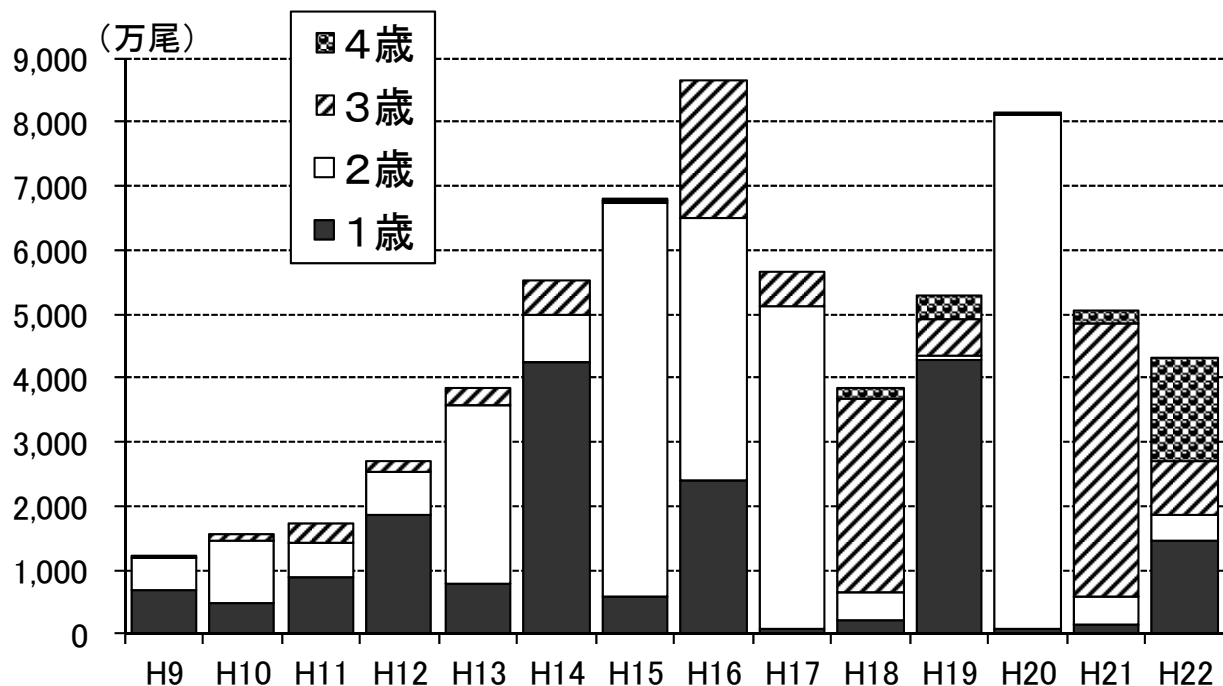


図3 日本海北部4県における年齢別漁獲尾数の推移

(H14年までは1～3歳の3群、H15年からは1～4歳の4群に分離)

- ◎H22年漁期はオス・メスともにH18年生まれ(4歳)とH21年生まれ(1歳)が多く、H19年生まれ(3歳)が混じる組成だった。

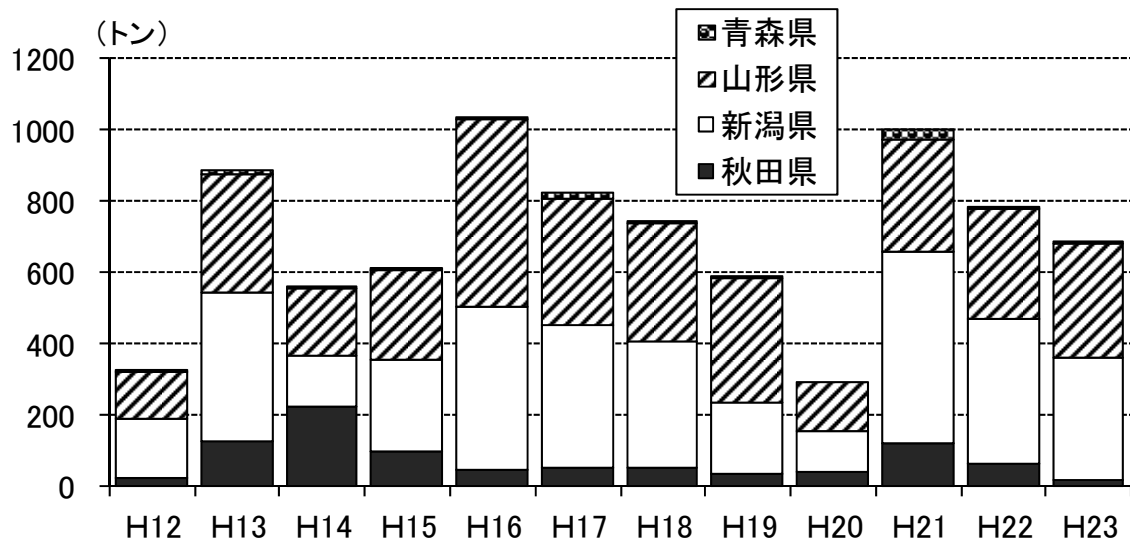


図4 1～6月における日本海北部4県底びき網漁獲量の推移

(水産振興センター調べ)

◎ 本年1～6月の日本海北部4県の漁獲量は 684トンで、前年の87%に減少した。
 各県の漁獲量は、新潟346トン(前年比 86 %)、山形 320トン (103 %)、
 秋田 18トン(28 %)、青森 0.2トン(4 %)で、山形を除き各県とも減少した。
 特に青森、秋田での減少が顕著だった。

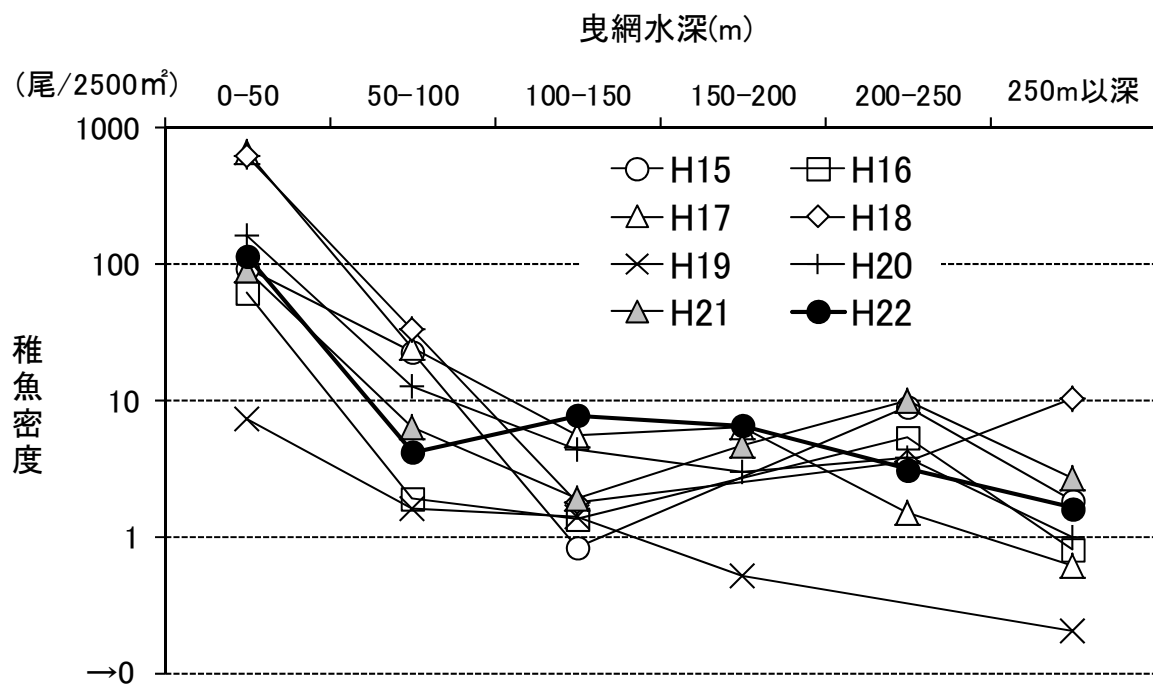


図5 4～8月におけるハタハタ仔稚魚の採集密度(第二千秋丸調査)

◎これまでの調査により、各年生まれのハタハタの資源量は、水深250m以深での稚魚密度を反映すると考えられる。

◎H22年生まれの稚魚密度は、資源量がかかなり多かったH18、H21年生まれより低いものの、資源量が少なめだったH17、19年生まれよりは高かった。

→ H22年生まれの資源水準は近年では中位程度と考えられる。

●調査船での調査結果(成魚:11-12月)

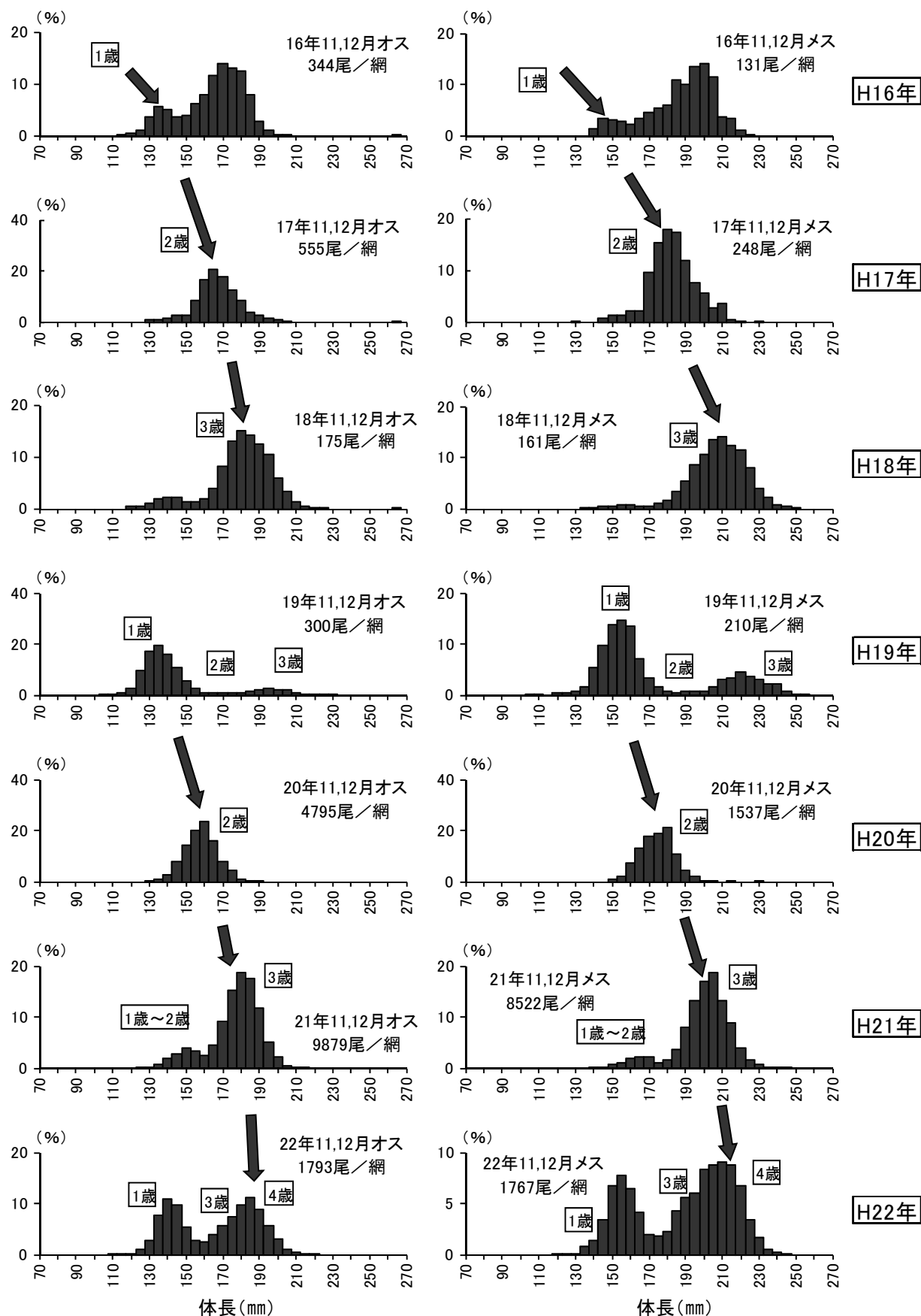


図6 11、12月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき網調査)

【昨年の傾向】

◎オス、メスともH18年生まれ(4歳)とH21年生まれ(1歳)が多く、H19年生まれ(3歳)が比較的多く混じっていた。

●調査船での調査結果(成魚:4-5月)

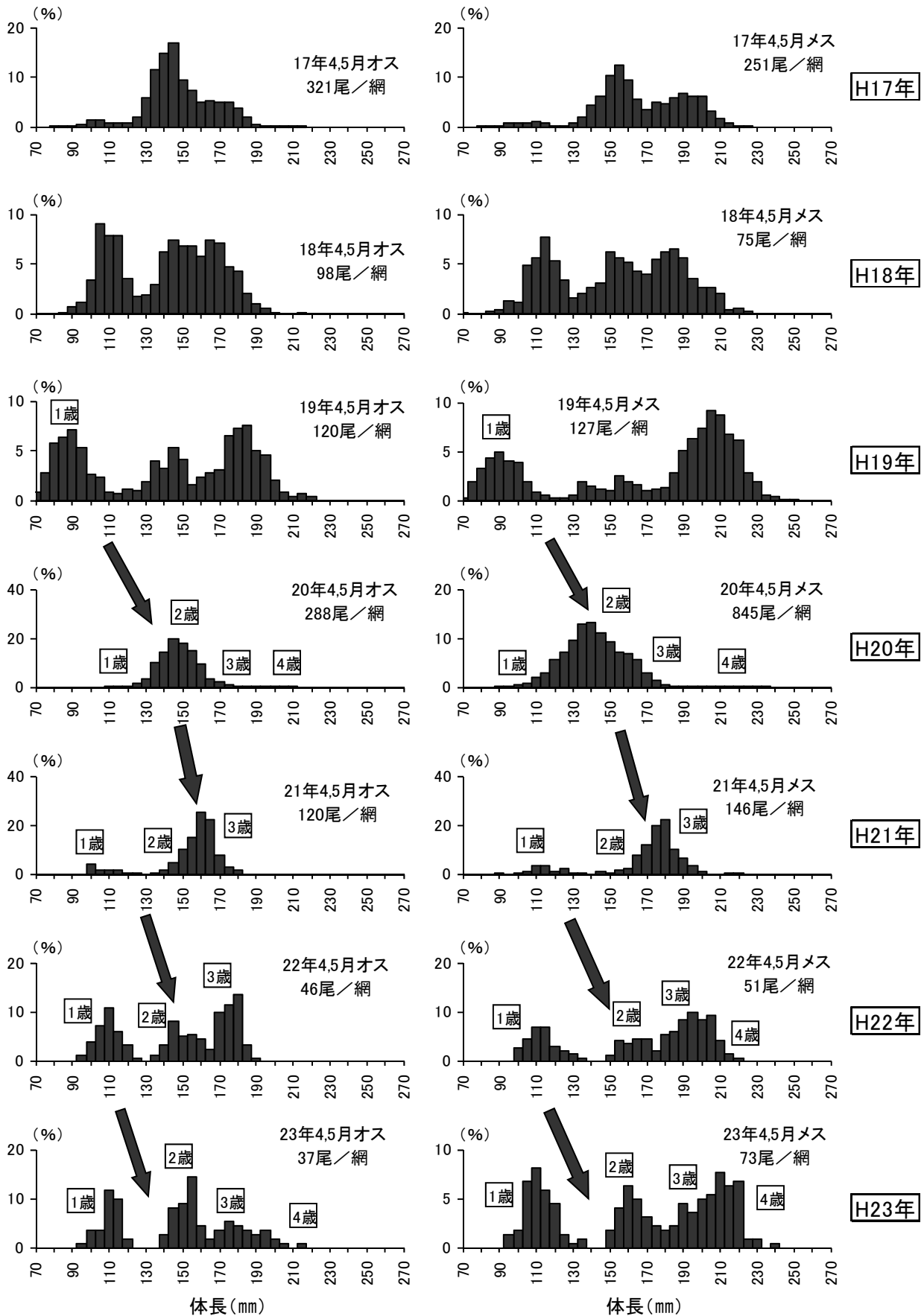


図7 4、5月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき網調査. 2008年以降は250m以深)

【今年の傾向】

◎水深250 m以深では、オスはH21、22年生まれ(1、2歳)の割合が高く、それにH19、20年生まれ(3、4歳)が混じる組成だった。メスは1、2歳と3、4歳の割合が同程度だった。

●調査船での調査結果(成魚:9-10月)

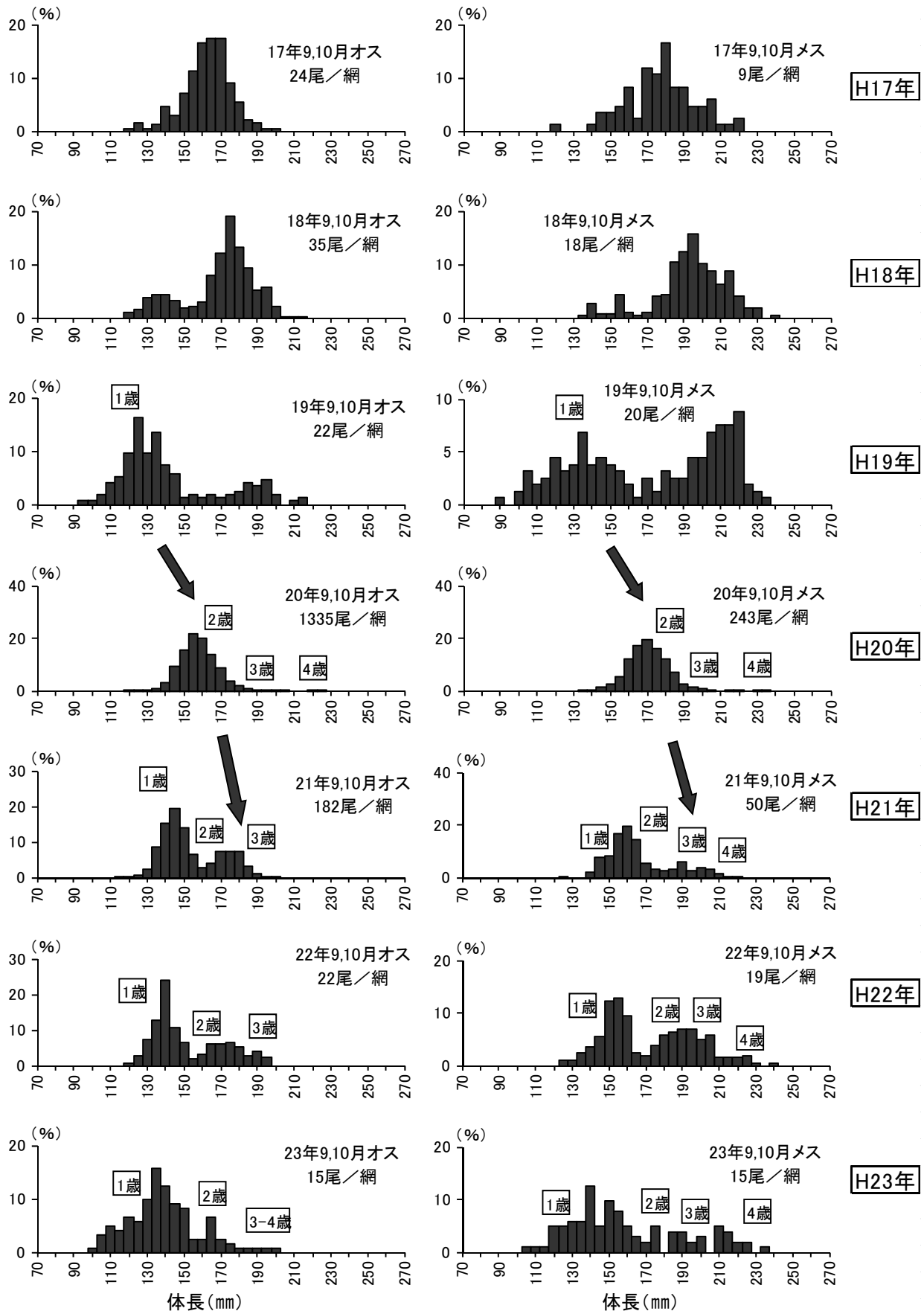


図8 9、10月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき網調査)

【今年の傾向】

◎ オス、メスともH22年生まれ(1歳)の割合が高く、今のところH19~21年生まれ(2~4歳)の割合は低い、4~5月の傾向から今後、2~4歳の割合が高まると考えられる。

H23年漁期のハタハタ漁獲対象資源量

◎ 2歳の割合が高く、4歳も比較的まとまって漁獲されると期待される。

→ 今漁期の資源は、中型(2歳)が主体となり、大型(4歳)も比較的多く混じることが期待される。

◎ 解析の結果、秋田県の漁獲対象資源尾数は 9814 万尾、資源量は約 7100 トン と推定した。

〔参考〕

本県沿岸における年齢別漁獲対象資源尾数

1歳	2171 万尾
2歳	5374 万尾
3歳	717 万尾
4歳以上	1552 万尾
合計	9814 万尾